

## ルラルさんのにわ

いとうひろし 作



ポプラ社 2001年(初版1990年ほるぷ出版) 1200円

ルラルさんは、まいにちにわの手入れをします。じまんのしばふのにわですから、だれかがにわに入ろうとするとパチンコでおいはらいます。あるあさ、にわにワニがいて、ねそべると気持ちいいぜとルラルさんに言います。ルラルさんがそのとおりにしてみると、思わずうっとりするくらい気持ちがよかったです。シリーズは「ルラルさんのバイオリン」など全4冊です。

## ロバのシルベスターとまほうのこいし

ウィリアム・スタイグ 作

せたていじ 訳



評論社 1975年 1300円

ロバの子シルベスターはかわった形や色の小石を集めるのが好きでした。ある日、願いをかなえてくれる魔法の赤い小石を拾ったシルベスターは、帰り道でライオンに出くわし、あわてふためいて岩になりたいと願ってしまいます。自分では元に戻れなくなったシルベスターの孤独と、帰って来ない息子を心配する両親の悲しみ、そしてロバの姿に戻った時の喜びが、明るい色彩で表情豊かに描かれています。

## わらのうしーウクライナの昔話ー

内田莉沙子 文

ワレンチン・ゴルディチューク 絵



福音館書店 1998年 1400円

あるところに、貧しいおじいさんとおばあさんがいました。ある日、おばあさんはおじいさんに言って、横っ腹がタールのわらの牛を作ってもらいました。おばあさんがわらの牛を丘に連れて行くと、熊、狼、狐が牛にくっついて離れなくなりました。おじいさんは捕まえた熊、狼、狐を逃がしてやるかわりに羊や鶏やはちみつなどを手に入れ、2人は幸せに暮らしました。迫力ある絵が大きな画面いっぱい描かれています。